

科目名 (英)	医学英語	必修 選択	必修	年次	2	担当 教員	太田 充保
	(Medical English)	授業 形態	必修	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 水曜1.2限
学科・コース	視能訓練科						
教員の略歴	B.A.in Physical Education						
授業の 学習内容	医学従事者に必要な英単語、文法を習得するとともに、医学英語論文を実際に読み、抄読会を行うことで活発な質疑応答を行う。						
到達目標	医学の専門用語を習得し、医療に関する文献を読むことができるよう、医学英単語のみならず、文法、医学論文に関する知識を習得することを目的とする。						
評価方法と基準	筆記試験100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	10/21	講義	オリエンテーション・医学に必要な英単語が理解できる		視能訓練士に必要な単語を復習する
2	10/21	講義	筆記体を書けるようになる、筆記体でサインが書けるようになる		AからZまで筆記体を書く復習
3	10/28	講義	英文の読み方や文法が理解できる		英文法について復習する
4	10/28	講義	第1文型と第2文型を理解することができる		英文法について復習する
5	11/4	講義	第3文型、第4文型、第5文型を理解することができる		英文法について復習する
6	11/4	講義	英文法を理解することができる		英文法について復習する
7	11/11	講義	論文の読み方が理解できるようになる		論文の読み方のルールを復習する
8	11/11	講義	Pub Med による論文検索方法を理解できる		実際に論文検索をする
9	11/18	講義	論文を検索することができるようになる		検索した論文にある文法を確認する
10	11/18	講義	Abstractを訳する手法を理解することができる		分からない英単語を調べてくる
11	11/25	講義	Introductionを訳する手法を理解することができる		分からない英単語を調べてくる
12	11/25	講義	Methodsを訳する手法を理解することができる		分からない英単語を調べてくる
13	12/2	講義	Results,Discussionを訳する手法を理解することができる		分からない英単語を調べてくる
14	12/2	演習	抄読会を行う。		論文を和訳して、PPにまとめる

15	2/3	講義	試験解説を行う。	解説内容をノートにまとめる。
準備学習 時間外学習			スムーズに授業を進めるために分からない英単語はしっかり調べてきてください。	
【使用教科書・教材・参考書】				
参考書:魔法の英文法				

科目名 (英)	臨床心理学 (Clinical Psychology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	宇野あかり
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期 曜日・時限 火曜・3限
教員の略歴	大学院にて臨床心理学を専攻。主に教育分野を中心に相談業務に従事。						
授業の学習内容	臨床心理学は、心に何らかの問題や困難を抱えている人に対する心理的援助を行うための理論や技法を扱う学問です。この講義では現代社会における心理的な問題に触れながら、心の問題の形成メカニズム・要因や、そのような人々を理解するために必要な視点・方法、心理的援助の方法について扱い、臨床心理学全体の構造について学びます。講義全体の内容を通して、全人的な視点から問題を抱える人々を捉えられるようになることで、みなさんの今後の臨床活動の中で実際に役立つ知識の獲得を目指します。						
到達目標	①臨床心理学という学問の基本的な考え方について理解する。 ②こころの問題に関する基礎的な知識を獲得する。 ③臨床心理学で扱われる代表的な理論や技法を理解する。 ④臨床心理学的な立場から問題に対する理解やその対処を考えることができる。						
評価方法と基準	ミニレポート課題20% 3回ごとに、それまでの講義内容を振り返った上での自身の意見や感想を簡単に書いてもらいます。 最終レポート課題80% 講義の内容を踏まえつつ、教員が提示した架空事例に対する理解やその支援法についてレポートを書いてもらいます。問題に対して、講義の中で扱った基本的な知識・技法を用いた考えができていれば「可」、自らの経験なども踏まえつつ、より応用的な視点から問題に対するアプローチができていれば「良・優」。						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1	5/12	双方向遠隔 授業	ガイダンス・臨床心理学について：臨床心理学の学問的な位置づけについて説明できる。	臨床心理学はどのような分野なのか、講義を受ける前のイメージを考えてくる。			
2	5/19	双方向遠隔 授業	臨床心理学的アプローチ：精神医学との相違点、「生物-心理-社会モデル」を理解しそれを説明できる。	講義内容の復習			
3	5/26	双方向遠隔 授業	人格理論・発達理論：他者理解の上で必要な人格理論や発達理論の基礎的な知識について説明できる。	ここまでの講義に関するミニレポート			
4	6/2	双方向遠隔 授業	心の問題・精神症状①：DSM-5に基づきうつ病・統合失調症・不安障害等について説明できる。	講義内容の復習			
5	6/9	双方向遠隔 授業	心の問題・精神疾患②：DSM-5に基づき自閉症スペクトラム・ADHD・その他の発達障害について説明できる。	講義内容の復習			
6	6/16	講義	心の問題・精神疾患③：DSM-5に基づきパーソナリティ障害・適応障害・その他の精神症状について説明できる。	ここまでの講義に関するミニレポート			
7	6/23	講義	アセスメント①：代表的な質問紙法による心理検査について測定内容や方法を説明できる。	講義内容の復習			
8	6/30	講義	アセスメント②：代表的な知能検査・発達検査について測定内容や方法を説明できる。	講義内容の復習			
9	7/7	講義	アセスメント③：代表的な投射法による心理検査について測定内容や方法を説明できる。	ここまでの講義に関するミニレポート			
10	7/7	講義	心理療法①：精神分析・来談者中心療法の基礎的な知識を説明できる。	講義内容の復習			
11	7/14	講義	心理療法②：行動論・認知論の基礎的な知識、認知行動療法の大まかな概略を説明できる。	講義内容の復習			
12	7/14	講義	心理療法③：遊戯療法・箱庭療法・コラージュ・家族療法等、その他の心理療法について説明できる。	ここまでの講義に関するミニレポート			
13	7/21	講義	心理面接：心理面接における基本的態度や諸技法、枠組みなどについて説明することができる。	講義内容の復習			
14	7/21	講義	これまでに学んだ用語・概念・理論について全体像をつかみ、自分で説明できる。	これまでの講義の内容を復習しておく。			
15	8/4	演習	カウンセリングのロールプレイ	自分はどうような相談の聴き方をしてもらおうと嬉しいのかを考えてみる。			
準備学習 時間外学習				講義で扱った内容の復習			
【使用教科書・教材・参考書】 □							
『スタンダード臨床心理学』サイエンス社 杉江 征， 青木 佐奈枝(編)							

科目名 (英)	関係法規 (Regulation)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木寿則
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜 3-4限
教員の略歴	医学博士を取得後、教育機関で8年間の教育経験を有する。						
授業の学習内容	この授業は、視能訓練士として必要な保健医療福祉に関する法律の知識を学習するためのものです。他に関連する科目として、公衆衛生学及び社会福祉概論と関係します。受講生に対する要望として、専門分野に限らず、社会の仕組みを学んでほしいと願っております。そのために、授業の展開として、教科書を中心に講義を行い、保健医療福祉関係の法規について、基礎的な知識を学修する。また、現代社会と法律の関係をより理解するために、時事問題なども取り入れる。						
到達目標	①保健医療福祉に関する法制度について説明できる。 ②視能訓練士法の内容について説明できる。 ③それぞれの保健衛生法の内容について説明できる。						
評価方法と基準	定期試験80%、出席数20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/15	双方向遠隔授業	医療と法について説明できる	教科書による通読
2	5/15	双方向遠隔授業	法律の仕組みについて説明できる	教科書による通読
3	5/22	双方向遠隔授業	医療法の目的について説明できる	教科書による通読
4	5/22	双方向遠隔授業	医療施設についてについて説明できる	教科書による通読
5	5/29	双方向遠隔授業	医師免許についてについて説明できる	教科書による通読
6	5/29	双方向遠隔授業	医師の医療行為について説明できる	教科書による通読
7	6/5	双方向遠隔授業	保健師助産師看護師法について説明できる	教科書による通読
8	6/5	双方向遠隔授業	視能訓練士法について説明できる	教科書による通読
9	6/12	双方向遠隔授業	医療従事者の資格法について説明できる	教科書による通読
10	6/12	双方向遠隔授業	感染症法について説明できる	教科書による通読
11	6/19	双方向遠隔授業	地域保健法について説明できる	教科書による通読
12	6/19	双方向遠隔授業	母子保健法について説明できる	教科書による通読
13	6/26	双方向遠隔授業	精神保健福祉法について説明できる	教科書による通読
14	6/26	双方向遠隔授業	医療保険制度について説明できる	教科書による通読
15	8/7	双方向遠隔授業	試験の解答および解説	教科書による通読
準備学習 時間外学習			あらかじめ教科書を通読し、講義内容の概略を把握しておくことを目的とする。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
森山幹夫「看護関係法令(第52版)」医学書院2020年2月15日発行				

科目名 (英)	ロービジョン医学 (Low Vision Medicine)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	小林茂樹 佐藤遼佳
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 水曜3限
教員の略歴	<p>【小林茂樹先生】 日本医科大学付属病院医員助手(眼科)(3年)、下館市民病院 眼科医長(3年)、医療法人 明信会 今泉眼科病院(2年)、 現 医療法人社団 小林眼科医院</p> <p>【佐藤遼佳】視能訓練士として5年の勤務経験あり 眼科一般検査全般に従事</p>						
授業の学習内容	<p>視覚障害者は必ずしも全盲者を指すものではない。また、視力障害だけでなく視野障害による見えにくさというものもある。 ロービジョン＝低視力者の見えにくさを理解し、評価、対応の実際を学ぶ。 病態別のロービジョンケア及び視覚障害の原因となり得る疾患について学ぶ。</p>						
到達目標	<p>視覚障害者等級について検査結果から評価できる。 患者主訴によって相応しいロービジョンエイドを選択できる。 必要倍率を計算し、患者の求める拡大率を求めることができる。 視覚障害の原因となる各種疾患について説明できる。</p>						
評価方法と基準	定期試験(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/3	双方向遠隔授業	ロービジョンの定義について理解できる。	国家試験過去問小テスト
2	6/10	双方向遠隔授業	視覚障害等級(視力)について理解できる	国家試験過去問小テスト
3	6/17	双方向遠隔授業	視覚障害等級(視野)について理解できる	国家試験過去問小テスト
4	6/24	双方向遠隔授業	ロービジョンエイドの分類が理解できる。	国家試験過去問小テスト
5	6/27	双方向遠隔授業	点眼総論、眼の解剖 解剖について理解し、説明することができる。	
6	6/27	双方向遠隔授業	前眼瞼疾患 病因・病態・臨床所見・治療方法を理解できる	
7	7/1	双方向遠隔授業	必要倍率を計算できる。	国家試験過去問小テスト
8	7/4	双方向遠隔授業	アレルギー性結膜炎 病因・病態・臨床所見・治療方法を理解できる	
9	7/4	双方向遠隔授業	白内障、緑内障 病因・病態・臨床所見・治療方法を理解できる	
10	7/8	双方向遠隔授業	日常生活用品・ロービジョンケアの注意点 ロービジョンエイドの処方について理解できる	国家試験過去問小テスト
11	7/11	双方向遠隔授業	網膜疾患 病因・病態・臨床所見・治療方法を理解できる	
12	7/11	双方向遠隔授業	硝子体疾患 病因・病態・臨床所見・治療方法を理解できる	
13	7/11	双方向遠隔授業	ぶどう膜疾患 病因・病態・臨床所見・治療方法を理解できる	
14	8/5	双方向遠隔授業	試験解説(佐藤先生)	
15	8/8	双方向遠隔授業	試験解説(小林先生)	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
視能学第2版・新しいロービジョンケア・ロービジョンケアの実際				

科目名 (英)	視覚障害者リハビリテーション (Rehabilitation Studies)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	田所雅弘 片岡洋樹
	学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義・実 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	【田所雅弘】視能訓練士として6年の勤務経験あり 眼科一般検査全般に従事 【片岡洋樹】理学療法士として、10年の臨床経験を有し、義肢や装具等のチェックアウトの経験を多数有する						
授業の学習内容	リハビリとは何か、基礎知識を学ぶ。 QOL(Quality of life)およびQOV(Quality of vision)の向上を目標とした視覚障害者リハビリテーションについて学ぶ。						
到達目標	社会におけるリハビリテーションの位置づけを理解できる。 車いすを安全に操作することができる。 点字の基礎知識について理解できる。 視覚障害者の基本的ガイドヘルプを実施できる。 視覚障害者を安全に誘導できる。						
評価方法と基準	定期試験 筆記(100%)						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1	5/12	双方向遠隔授業	視覚障害者リハビリテーションの理念を学び、説明することができる。	教科書を通読	授業資料をまとめる		
2	5/19	双方向遠隔授業	視覚障害の臨床像を学び、患者のニーズと症状を関連付けて説明できる。	教科書を通読	授業資料をまとめる		
3	5/26	双方向遠隔授業	ロービジョンフレンドリーな環境を学び、病院内での誘導・対応が実施できる。	教科書を通読	授業資料をまとめる		
4	6/1	双方向遠隔授業	視覚障害者が利用できる福祉を学び、そのメリットを説明できる。	教科書を通読	授業資料をまとめる		
5	6/2	双方向遠隔授業	医療におけるコミュニケーションの重要性を学び実施できる。車いすの操作ができる。	教科書を通読	授業資料をまとめる		
6	6/4	双方向遠隔授業	移乗の動作を学び、実践する事ができる。	教科書を通読	授業資料をまとめる		
7	6/5	双方向遠隔授業	社会におけるリハビリテーションの位置づけを学び説明できる。医療人としてのリテラシーを学び説明できる。	教科書を通読	授業資料をまとめる		
8	6/22	双方向遠隔授業	点字の基礎を学び、点字器を用いて点字を打つことができる。	教科書を通読	授業資料をまとめる		
9	6/29	双方向遠隔授業	点字の基礎を学び点字を読むことができる。	教科書を通読	授業資料をまとめる		
10	7/6	双方向遠隔授業	遮光眼鏡の構造と処方を学び、説明できる。	教科書を通読	授業資料をまとめる		
11	7/6	双方向遠隔授業	拡大読書器や各種ICTの利用方法を学び、説明できる。	教科書を通読	授業資料をまとめる		
12	7/6	双方向遠隔授業	拡大鏡(ルーペ)の構造と処方方法について学び、説明する事ができる。	教科書を通読	授業資料をまとめる		
13	7/13	実習	基本的ガイドヘルプ法を学び説明できる。	教科書を通読	授業資料をまとめる		
14	7/20	実習	基本的ガイドヘルプを実践できる。	レポート提出			
15	8/3	講義	試験解説				
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】 □							
新しいロービジョンケア(メジカルビュー社)							

科目名 (英)	視能訓練学 I (Ortoptics I)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	田邊恵子
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 曜日・時限 木曜3限
教員の略歴	視能訓練士、保健科学研究科卒業、教育歴35年 視能訓練士協会理事3期6年、現厚生労働省国家試験問題作成委員3期6年務める						
授業の学習内容	斜視・弱視など両眼視機能障害の基本的知識を確認しながら、検査から鑑別診断、訓練方法までを学ぶ。						
到達目標	両眼視機能障害の鑑別診断から訓練方法までを系統的に説明できる。						
評価方法と基準	1 定期試験(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/14	双方向遠隔授業	オリエンテーション・弱視の基本的知識を理解する。	
2	5/21	双方向遠隔授業	屈折異常弱視・形態覚遮断弱視が理解できる	
3	5/28	双方向遠隔授業	不同視弱視・微小斜視弱視が理解できる。	
4	6/4	双方向遠隔授業	斜視弱視が理解できる。	
5	6/11	双方向遠隔授業	総括1(講義1回～4回の確認試験)を行う。	
6	6/17	双方向遠隔授業	総括1(確認試験)の解答、解説を行う。	
7	6/24	双方向遠隔授業	斜視の基本的知識が理解できる。	
8	6/25	双方向遠隔授業	先天内斜視・調節性内斜視が理解できる。	
9	7/1	双方向遠隔授業	間欠性外斜視が理解できる。	
10	7/2	双方向遠隔授業	交代性上斜視が理解できる。	
11	7/8	双方向遠隔授業	下斜筋過動・偽斜視が理解できる。	
12	7/9	双方向遠隔授業	総括2(講義7回～11回の確認試験)を行う。	
13	7/15	双方向遠隔授業	総括2(確認試験)の解答、解説を行う。	
14	7/16	双方向遠隔授業	総括3(講義1回～13回)重要点が理解できる。	
15	8/6	双方向遠隔授業	試験解説	

準備学習 時間外学習	
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>

17	6/24	双方向遠隔授業	屈折検査③小児視覚の特性が理解できる。	授業資料で復習
18	7/1	双方向遠隔授業	屈折検査④小児の他覚的な視力検査が理解できる	授業資料で復習
19	7/1	双方向遠隔授業	屈折検査⑤屈折異常と明視範囲が理解できる。	授業資料で復習
20	7/8	双方向遠隔授業	涙器、涙液の構造を理解できる。 涙液検査の原理、方法、正常値を説明できる。	授業資料で復習
21	7/8	双方向遠隔授業	瞳孔の解剖生理を理解できる。瞳孔検査の原理・方法を理解し、評価ができる。	授業資料で復習
22	7/15	双方向遠隔授業	頭位異常の取り方を理解できる。	授業資料で復習
23	7/15	双方向遠隔授業	頭部傾斜試験の原理と検査法を理解できる	授業資料で復習
24	7/22	双方向遠隔授業	確認試験	
25	7/22	双方向遠隔授業	確認試験解説	
26	9/19	双方向遠隔授業	SCLの着脱方法を学び、説明できる。着脱・レンズケアにおける安全面への配慮を説明できる。	coopervision配布資料参照
27	9/19	双方向遠隔授業	SCLの着脱を実践し、装用感を体験する。レンズケアを体験する。	coopervision配布資料参照
28	9/19	双方向遠隔授業	SCL着脱指導の内容について理解し説明できる。また実際に指導ができる。	coopervision配布資料参照
29	9/19	双方向遠隔授業	SCLの処方の流れ、着脱練習の指導方法を実施できる。レンズケアの重要性を説明できる。	coopervision配布資料参照
30	10/7	双方向遠隔授業	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
視能学第二版、視能検査法ハンドブック、目でみる視力・屈折検査の進め方、理解を深めよう視力検査 屈折検査				

科目名 (英)	視能検査機器学 (Orthoptic Device and Equipment)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田所雅弘
	学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日 1限
教員の略歴	視能訓練士として6年勤務経験あり。様々な視能検査に従事した。							
授業の学習内容	眼科一般検査の基本的知識を学ぶ。							
到達目標	各検査に必要な解剖生理を理解できる。 各検査の手順を理解し、検査方法、対象、正常値を説明できる。 各検査の結果を評価することができる。							
評価方法と基準	定期試験(100%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/11	双方向遠隔授業	眼圧検査・隅角検査各種の検査方法や結果の見方を理解できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
2	5/18	双方向遠隔授業	電気生理学検査各種の原理・方法 正常値を理解できる。(ERG・VEP)	講義内容に関してノートにまとめる。
3	5/18	双方向遠隔授業	電気生理学検査各種の原理・方法 正常値を理解できる。(VEP・EOG・EMG)	講義内容に関してノートにまとめる。
4	5/25	双方向遠隔授業	電気生理学検査 確認テスト 電気生理学検査について理解できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
5	5/25	双方向遠隔授業	前眼部・透光体検査に必要な細隙灯顕微鏡の照明方法を説明できる。	小テストを実施する。
6	6/1	双方向遠隔授業	中心視野検査の検査原理・方法・結果の見方を理解できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
7	6/8	双方向遠隔授業	静的視野検査・動的視野検査の検査原理・方法・結果の見方を理解できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
8	6/15	双方向遠隔授業	角膜の解剖生理を理解できる。 各部の正常値を説明できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
9	6/22	双方向遠隔授業	角膜検査各種の検査方法、正常値を理解できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
10	6/29	双方向遠隔授業	眼底検査(直像鏡、倒像鏡、眼底カメラ)の検査原理を理解し説明できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
11	7/6	双方向遠隔授業	画像検査①:眼底写真の読影方法について学び、代表的な疾患の所見が説明できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
12	7/13	双方向遠隔授業	画像検査②:CT・MRIの原理について学び、読影ポイントが説明できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
13	7/20	双方向遠隔授業	画像検査③:光干渉断層計(OCT)の検査原理を理解し、簡潔な説明ができる。	講義内容に関してノートにまとめる。
14	7/20	双方向遠隔授業	画像検査④:光干渉断層計(OCT)の読影方法について学び、代表的な疾患の所見が説明できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
15	8/3	双方向遠隔授業	試験解説	解説内容に関してノートにまとめる。
準備学習 時間外学習		講義内容に対応する教科書のページを熟読し、ノートまとめをする事。		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
視能学第2版・眼科検査法ハンドブック				

科目名 (英)	視能生理学実習 (Practical training in Optical Physinlogy)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	木皿 滋
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜・木曜 1・2限
教員の略歴	古河中央眼科・視能訓練士、仙台医健・スポーツ&こども専門学校 視能訓練科 勤務 視能訓練士						
授業の学習内容	相互実習を行ない、正しい検査手技によって正確な検査結果を出せるようになる。						
到達目標	各種講義で学んだ知識をもとに検査・評価ができる。						
評価方法と基準	定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) ※実技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/9	実習	実習授業オリエンテーション 清潔不潔の観念について学び、正しい衛生管理を実践できる。	
2				
3	6/11	双方向遠隔授業	HFAオリエンテーション(科目の概要・評価)・講義 検査法の原理について学ぶ。検査対象となる疾患を学び、述べるができる。	レポート提出
4				
5	6/16	実習	外眼部検査:眼球突出・瞼裂幅の測定ができる。 眼圧検査:シェッツ、ノンコン、アキュペンの準備、接遇・誘導・検査説明・操作・記載が出来る。	レポート提出
6				
7	6/18	実習	HFA ハンフリー視野計の検査目的と意義を理解する。適切な検査説明をし、正しい検査結果を出すことができる。また、検査成績の判定ができる。	レポート提出
8				
9	6/23	実習	調節検査:調節の仕組みを理解できる。調節力を求める計算式から問題を解くことができる。 眼圧検査:シェッツ、ノンコン、アキュペンの準備、接遇・誘導・検査説明・操作・記載が出来る。	
10				
11	6/25	実習	HFA ハンフリー視野計の検査目的と意義を理解する。適切な検査説明をし、正しい検査結果を出すことができる。また、検査成績の判定ができる。	レポート提出
12				
13	6/30	実習	調節検査:調節の仕組みを理解できる。調節力を求める計算式から問題を解くことができる。 眼圧検査:シェッツ、ノンコン、アキュペンの準備、接遇・誘導・検査説明・操作・記載が出来る。	レポート提出
14				
15	7/2	実習	右原式近点計:適切な検査説明ができる。遠点測定のために加入するレンズ度数を設定できる。 涙液検査:涙液の構造と生理を理解し説明できる。シルマー試験、綿糸法、メニスカスの評価の方法を理解し説明できる。	レポート提出
16				
17	7/3	実習	右原式近点計:適切な検査説明ができる。遠点測定のために加入するレンズ度数を設定できる。 涙液検査:涙液の構造と生理を理解し説明できる。シルマー試験、綿糸法、メニスカスの評価の方法を理解し説明できる。	レポート提出
18				
19	7/7	実習	ダコモ:器械の操作を理解し、結果を評価することができる。 涙液検査:シルマー試験、綿糸法、メニスカスの評価を安全に実施できる。	レポート提出
20				
21	7/10	実習	ダコモ:器械の操作を理解し、結果を評価することができる。 涙液検査:シルマー試験、綿糸法、メニスカスの評価を安全に実施できる。	レポート提出
22				
23	7/14	実習	中間試験 1~22コマの間に習得した検査の中から行う。	
24				
25	7/16	実習	三柱深径覚計:適切な検査説明ができる。器械の操作ができる。 コントラスト視力:縮視力の原理を理解でき、少数視力への換算ができる。コントラスト視力を測定できる。	レポート提出
26				
27	7/17	実習	三柱深径覚計:適切な検査説明ができる。器械の操作ができる。 コントラスト視力:縮視力の原理を理解でき、少数視力への換算ができる。コントラスト視力を測定できる。	レポート提出
28				
29	8/6	講義	試験解説(内部教員)	
30	8/6	講義	試験解説(木皿先生)	
準備 学習		実習室にて自主練習を行なって下さい。		
【使用教科書・教材・参考書】 視能学第2版(文光堂) 眼科検査法ハンドブック第4版(医学書院)口				

科目名 (英)	眼科薬理学 I (Pharmacology I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	江戸清人
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義・実 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 火曜日 曜日・時限 3限
教員の略歴	薬学博士(S49取得) 帝京大学薬学部教授(H18-28)						
授業の学習内容	医療の現場において視能訓練士は医薬品や、試薬を使用する機会も多い。この科目では臨床で用いられる医薬品一般について概略的に学ぶことを目的とする。医薬品の位置付け、関連する法律、点眼薬の実習、医薬品各論、特に、医薬品の作用機作(どのようにして効果を現わすのか)、疾患への適応、そして副作用について学ぶ。医薬品情報の種類、調査法についても学ぶ。						
到達目標	①医薬品とはどのようなものかを理解でき、説明できる。②コメディカルが理解を必要とする医薬品100種類の作用機序、適応、副作用について説明できる。④書籍(医療等に関する)を1冊読み、読後感想文を作成できる。						
評価方法と基準	期末の定期試験80点、実習10点、医療に関する新書の読後レポート10点、その他出席状況、受講態度も評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/8	講義	薬の作用と生体内運命について理解する(その1)	教科書p1~14を熟読する。
2	9/15	講義・演習	同上 (その2) / 演習	教科書p15~35、レポート課題発表予定
3	9/29	講義・演習	医薬品情報・医療用添付文書—その調べ方とその内容を理解する。	プリント配布、インターネット接続可能な機器持
4	10/6	講義・演習	中枢神経系に作用する薬について理解する(その1) / 演習	教科書p37~53を熟読する。
5	10/13	講義・演習	同上 (その2) / 演習	教科書p54~78を熟読する。
6	10/20	講義・演習	同上(その3) / 自律神経に作用する薬について理解する(その1) / 演習	教科書p78~105を熟読する。
7	10/27	講義・演習	自律神経に作用する薬について理解する(その2) / 演習	教科書p106~126を熟読する。
8	11/10	講義・演習	同上 (その3) / 演習	教科書p126~157を熟読する。
9	11/17	講義・演習	知覚神経系・運動系に作用する薬について理解する / 演習	教科書p159~171を熟読する。
10	11/24	講義・演習	ホルモンと薬について理解する(その1) / 演習	教科書p229~244を熟読する。
11	12/1	講義・演習	同上 (その2) / 演習	教科書p244~262を熟読する。
12	12/8	実習	散瞳薬・縮瞳薬の薬理について理解する(その1)	プリント配布
13	12/15	実習	同上 (その2)	プリント配布
14	1/19	講義・演習	抗菌薬・抗ウイルス薬・抗悪性腫瘍薬について理解する / 演習	教科書p357~412を熟読する。
15	2/2	講義・演習	試験解説を行う。	プリント配布 / 解説内容をノートにまとめる。
準備学習 時間外学習			教科書を熟読すること。	
【使用教科書・教材・参考書】教科書: 櫻田 司編集、「コンパス薬理学」、南江堂、2011。演習: 安原一・小口勝司編、「わかりやすい薬理学第3版 整理ノート ポイントと確認問題」、ノーベルヒロカワ、2017。				



科目名 (英)	眼疾病学 I (Ophthalmology I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	東北大学病院 医師/内部
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	東北大学病院眼科より眼科専門医が講師として来校						
授業の学習内容	<p>眼瞼、涙器、網膜の構造について学ぶ。 眼瞼、結膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について学ぶ。 角膜・強膜の構造。角膜、胸膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について学ぶ。 視覚器の解剖、視機能の評価について学ぶ。 網膜硝子体疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法を学ぶ。 水晶体疾患について、白内障を原因別に分類し、病態・臨床所見・治療法を学ぶ。 緑内障について学ぶ。 小児眼科、弱視、斜視について学ぶ。 ぶどう膜の解剖・生理について学ぶ。ぶどう膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療法について学ぶ。 網膜硝子体の構造と生理について学ぶ。網膜硝子体検査の方法について学ぶ。 外傷・全身疾患と眼の関係性を学ぶ。</p>						
到達目標	視能訓練士が関わる眼疾患を中心にその病態、検査法、鑑別診断、治療法を説明できる。						
評価方法及び基準	定期試験 筆記 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/7	講義	眼瞼、結膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について学ぶ。 角膜・強膜の構造。角膜、胸膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療法について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	現代の眼科学(改訂第12版) 第4章眼瞼疾患(P80~P87)、第6章結膜疾患(P96~P106)熟読する。
2	9/9	講義	視覚器の解剖、視機能の評価について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	現代の眼科学(改訂第12版) 第1章解剖・発生(P2~P22)熟読する。
3	9/10	講義	網膜硝子体疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法を学ぶ。 水晶体疾患について、白内障を原因別に分類し、病態・臨床所見・治療法を学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	現代の眼科学(改訂第12版) 第9章網膜硝子体疾患(P162~P211)熟読する。
4	9/11	講義	水晶体疾患について、白内障を原因別に分類し、病態・臨床所見・治療法を学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	現代の眼科学(改訂第12版) 第10章(P218~P232)熟読する。
5	9/14	講義	緑内障について学ぶ。 小児眼科、弱視、斜視について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	現代の眼科学(改訂第12版) 第11章緑内障(P234~P248)、第13章小児眼科(P274~P296)熟読する。
6	9/16	講義	ぶどう膜の解剖・生理について学ぶ。ぶどう膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療法について学ぶ。 網膜硝子体の構造と生理について学ぶ。網膜硝子体検査の方法について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	現代の眼科学(改訂第12版) 第8章ぶどう膜疾患(P130~P158)熟読する。
7	9/17	講義	外傷・全身疾患と眼の関係性を学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	現代の眼科学(改訂第12版) 第16章全身病と眼(P330~P342)、第17章外傷(P344~P357)熟読する。
8	9/28	講義	眼疾患に必要な解剖生理学が理解できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
9	10/5	講義	水晶体の解剖生理を理解し、白内障の原理から検査、治療まで説明できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
10	10/12	講義	緑内障の種類や特徴、検査、治療までを学び、過去問を解くことができる。	講義内容に関してノートにまとめる。
11	10/19	講義	全身疾患が原因となり現れる眼疾患について学ぶ。糖尿病、動脈硬化、高血圧の病態を簡潔に説明できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
12	10/26	講義	心因性視覚障害の特徴及び検査を説明できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
13	11/9	演習	8~12コマの授業内容で確認試験を実施する。	確認試験
14	11/16	講義	確認試験の解説を行う。	解説内容をノートにまとめる。
15	2/1	講義	試験解説を行う。	解説内容をノートにまとめる。
準備学習 時間外学習			眼疾病学は基本的に現代の眼科学・眼疾患ビジュアルブックを参考にノート作成を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】 視能学 第2版・現代の眼科学 改訂12版・眼疾患ビジュアルブック				

科目名 (英)	視能訓練学Ⅱ (OrtopticsⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	辛米子
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 (2)	開講区分	後期 木曜日 3・4限
教員の略歴	視能訓練士としての眼科臨床 47年間 ii. 視能訓練士科学生の臨床実習指導 19年間 専門学校視能訓練士科の非常勤講師 23年間						
授業の学習内容	<p>【内部】 斜視・弱視など両眼視機能障害の基本的知識を確認しながら、検査から鑑別診断、訓練方法までを学ぶ。</p> <p>【辛米子】 本講義では、両眼視を運動面と感覚面から学習することになります。正常な両眼視機能(同時視・融像幅・立体視力)があっても、麻痺性斜視になれば、両眼視をしてはいても、直ちに複視を自覚し、正常な両眼視ができなくなります。これが運動面の異常です。一方、先天斜視は手術によって正位を得ても、潜在する両眼視機能がなければ、単眼視しかできない場合があります。これが感覚面の異常です。このように正常な両眼視には、運動面も、感覚面も正常であることが必要です。</p> <p>運動面では、Heringの法則とSherringtonの法則を学習することになります。これら2つの法則に基づいた検査法として、Hess赤緑試験、Bielschowsky head tilt test、Parks 3 stepsなどがあります。また、眼球運動の評価に迷った時には、これら2つの法則に照らして考える必要があります。例えば、Duane症候群では、Sherringtonの法則に反する症状が診断の決め手になります。また、交代性上斜位(DVD)、解離性水平斜位(DHD)の診断は、Heringの法則に反する眼球運動によって確定することができます。さらに、麻痺性斜視の第1偏位と第2偏位の差は、Heringの法則によって説明することができます。このように、本講義で学習する2つの法則は、両眼視を司る運動面の評価には、欠かせない重要な法則です。2年生の皆様には、来る3年時の臨床実習や国家試験に対する万全の備えとして、これら2つの法則を十分に理解していただけるように本講義を進めていきたいと考えております。</p> <p>感覚面では、両眼視機能の基礎となる抑制・複視・網膜対応の検査法として、Worth 4 dot test、Bagolini SG testを学習することになります。</p> <p>テキストには、図解とその逐一な解説が秀逸である点、および弱視斜視の臨床で多用される医学英語とその略語の出現頻度が高い点から、臨床実習や将来の臨床実務に役立つと考え、Atlas of Strabismus (3rd ed.)を選択いたしました。</p> <p>さらに時間に余裕があれば、検者と被検者に分かれ、下記の5項目を目的に明室と暗室でprism vergence(輻湊・開散・垂直)を定量していただきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.正常対応斜視とその複視の擬似体験 2.輻湊・開散・垂直の融像幅の大きさを比較 3.運動性と感覚性の融像の相違を確認 4.相対輻湊と絶対輻湊の相違を確認 						
到達目標	<p>【内部】 両眼視機能障害の鑑別診断から訓練方法までを系統的に説明できる。</p> <p>【辛米子】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①眼球運動の法則(Sherrington・Hering)を理解することができる。 ②Worth 4 dot test・Bagolini SG testで、網膜対応・複視の種類を判定することができる。 ③赤ガラスや室内光の明るさがもたらす両眼分離の程度がWorth 4 dot testやBagolini SG testの結果に及ぼす影響を理解することができる。 ④輻湊と開散を誘引するプリズムの基底方向を知ることができる。 ⑤輻湊・開散・垂直の融像幅の大きさを比較体験し、それらの差を知ることができる。 ⑥運動性融像と感覚性融像の相違、および相対輻湊と絶対輻湊の相違を実際に体験し、判別することができる。 						
評価方法と基準	定期試験(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/9	講義	眼振の分類と種類を学ぶ。生理的眼振の説明ができ、病的眼振との区別ができる。	授業内容のノートまとめ
2	9/16	講義	Endular nystagmusとjerky nystagmusの運動面と機能面で区別ができ、簡潔に説明できる。	授業内容のノートまとめ
3	9/23	講義	病的眼振の原因となり得る障害部位を説明する事ができる。	授業内容のノートまとめ
4	9/30	講義	眼振に対する観血的治療法の名称と原理を学び、簡潔に説明できる。	授業内容のノートまとめ

5	10/1	講義	眼振に対する非脱血的療法(主に光学的療法)について学び、名称と原理が簡潔に説明できる	授業内容のノートまとめ
6	10/1	講義	1-5までの眼振に関する確認試験を行なう。	確認試験
7	10/7	講義	眼振確認試験の解説を行なう。	不正解問題の解説ノートを作成
8	10/8	講義	眼球運動神経核の位置を理解できる。	授業内容のノートまとめ
9	10/8	講義	動眼神経核から上枝、下枝にわたる経路が理解できる。	授業内容のノートまとめ
10	10/14	講義	総括1(講義8回~9回の確認試験)を行う。	確認試験
11	10/15	講義	総括1(確認試験)の解答、解説を行う。	不正解問題の解説ノートを作成
12	10/15	講義	斜視手術…各術式について理解できる。	授業内容のノートまとめ
13	10/21	講義	斜視手術…各術式について理解できる。	授業内容のノートまとめ
14	10/22	講義	動眼神経麻痺が理解できる。	授業内容のノートまとめ
15	10/22	講義	動眼神経麻痺・外転神経麻痺が理解できる。	授業内容のノートまとめ
16	10/28	講義	斜視手術…合併症について理解できる。	授業内容のノートまとめ
17	10/29	講義	斜視手術…斜視手術の確認テストを行う。	確認試験
18	10/29	講義	滑車神経麻痺、Bielscowsky頭部傾斜試験が理解できる。	授業内容のノートまとめ
19	11/4	講義	総括2(講義14,15,18回の)重要点が理解できる。	授業内容のノートまとめ
20	11/5	講義	斜視の光学的矯正 弱視の大きな要因である屈折異常について理解できる。	授業内容のノートまとめ
21	11/5	講義	斜視の光学的矯正 弱視視能矯正における屈折矯正の役割を理解できる。	授業内容のノートまとめ
22	11/11	講義	斜視手術…確認テストの解説を行う。	不正解問題の解説ノートを作成
23	11/12	講義	斜視のボツリヌス治療 ボツリヌス毒素の副作用と適応を述べる事ができる。	授業内容のノートまとめ
24	11/12	講義	斜視の光学的矯正 視能矯正の段階に応じた屈折矯正について理解できる。	授業内容のノートまとめ
25	11/18	講義	斜視の光学的矯正 プリズム眼鏡の原理を理解できる。	授業内容のノートまとめ
26	11/19	講義	Brown症候群、Duane症候群が理解できる。	授業内容のノートまとめ
27	11/19	講義	重症筋無力症、外眼筋ミオパチーが理解できる。	授業内容のノートまとめ
28	11/25	講義	斜視視能矯正の目的を理解し、大型弱視鏡による訓練方法を説明できる。	授業内容のノートまとめ
29	11/26	講義	斜視視能矯正の目的を理解し、大型弱視鏡以外の訓練方法を説明できる。	授業内容のノートまとめ
30	11/26	講義	General morosis syndrome, blowout fractureが理解できる	授業内容のノートまとめ
31	12/2	講義	総括3(講義26,27,30回の確認試験)を行う。	確認試験
32	12/3	講義	総括3(確認試験)の解答、解説を行う。	不正解問題の解説ノートを作成
33	12/3	講義	眼球運動恢復 眼球運動の法則を理解し、結果の判定ができる	授業内容のノートまとめ
34	12/9	講義	Hering's lawを理解し説明できる	Atlas of Strabismus 3rd ed.(pp.20-25)の下訳
35	12/9	講義	Sherrington's lawを理解し説明できる	Atlas of Strabismus 3rd ed.(pp.26-27)の下訳
36	12/10	講義	Worth 4 dot test理解し説明できる	Atlas of Strabismus 3rd ed.(pp.68-69)の下訳
37	12/10	講義	Bagolini SG test理解し説明できる	Atlas of Strabismus 3rd ed.(pp.94-95)の下訳

38	12/10	講義	明室でprism vergenceを測定(赤ガラス・調節目標・固視光を用いた輻湊・開散・垂直)	結果をワークシートに記入し、シート内の設問に回答
39	12/10	講義	暗室でprism vergenceを測定(赤ガラス・調節目標と固視光を用いた輻湊・開散・垂直)	結果をワークシートに記入し、シート内の設問に回答
40	12/16	講義	眼球運動検査 Hess赤緑試験の原理を理解し、結果の判定ができる。	授業内容のノートまとめ
41	12/17	講義	心因性の視力障害・視野障害・色覚障害の検査所見を理解し説明できる。	授業内容のノートまとめ
42	12/17	講義	心因性視覚障害の診断に有用な検査の具体的な測定方法を学ぶ。心因性視覚障害と詐病を区別して考えることができる。	授業内容のノートまとめ
43	1/6	講義	確認試験を行う。	確認試験
44	1/13	講義	確認試験解説を行う。	解説内容をノートにまとめる。
45	2/3	講義	試験解説を行う。	解説内容をノートにまとめる。
準備学習 時間外学習			国家試験で多く出題される分野であるため、授業ごとにしっかりノート作成を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】 □ 視能学第2版・眼科検査法ハンドブック				

科目名 (英)	視能訓練学実習 I	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	田邊恵子 田所雅弘
	(Practical Trainig in Orthoptics I)	授業 形態	講義・実 習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	後期 月曜3.4限
学科・コース	視能訓練科						
教員の略歴	【田邊恵子】保健科学研究科卒業、教育歴35年 視能訓練士協会理事3期6年、現厚生労働省国家試験問題作成委員3期6年務める 【田所雅弘】視能訓練士として6年勤務経験あり 眼科一般検査全般に従事						
授業の学習内容	眼位、眼球運動、両眼視機能などの知識から各種診断的検査を行う。 眼位検査および大型弱視鏡を用いての検査の基礎知識や基本手技を習得する。						
到達目標	眼位検査におけるさまざまな所見を説明できる。 患者所見から必要な検査・スライドを選択できる。 水平斜視の眼位検査を通して眼位を正しく定性、定量できる。						
評価方法と基準	定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) ※実技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/7	講義	△cover test	レポート提出
2			眼位の基礎知識について理解できる。	
3	9/14	講義	大型弱視鏡	レポート提出
4			両眼視機能の概要について理解できる。	
5	9/28	講義	△cover test	レポート提出
6			眼位検査の原理・方法について理解できる。	
7	10/5	講義	大型弱視鏡	レポート提出
8			斜視検査の原理・方法について理解できる。	
9	10/12	実習	大型弱視鏡:基本操作ができる。	レポート提出
10			△cover test:遠見CTが実践できる。	
11	10/19	実習	大型弱視鏡:単眼眼位(γ角)測定が実践できる。	レポート提出
12			△cover test:遠見CUTが実践できる。	
13	10/26	実習	大型弱視鏡:両眼眼位(固視点減法)測定が実践できる。	レポート提出
14			△cover test:遠見ACT法が実践できる。	
15	11/2	実習	大型弱視鏡:両眼眼位検査(交代点減法)が実践できる。	レポート提出
16			△cover test:遠見定性検査が実践できる。	
17	11/9	実習	大型弱視鏡:両眼視機能(同時視)検査が実践できる。	レポート提出
18			△cover test:遠見SPCTが実践できる。	
19	11/16	実習	大型弱視鏡:両眼視機能検査(網膜対応)が実践できる。	レポート提出
20			△cover test:遠見APCTが実践できる。	
21	11/30	実習	大型弱視鏡:両眼視機能検査(融像)が実践できる。	レポート提出
22			△cover test:遠見定量検査が実践できる。	
23	12/7	実習	確認試験	授業資料で予習・復習
24				
25	12/14	実習	大型弱視鏡:両眼視機能検査(立体視)が実践できる。	レポート提出
26			△cover test:遠見眼位検査が実践できる。	
27	1/18	実習	大型弱視鏡:症例を想定した検査ができる。	レポート提出
28			△cover test:時間内に遠見眼位検査ができる。	
29	2/1	講義	試験解説	
30				
準備学習 時間外学習		積極的に実習室での自主練習を行ってください。		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
視能学・眼科検査法ハンドブック・講義資料				

科目名 (英)	視能訓練学実習Ⅱ (Practical Trainig in Orthoptics Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田邊恵子 田所雅弘
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	後期 火曜日 1.2限
教員の略歴	【田邊恵子】保健科学研究科卒業、教育歴35年 視能訓練士協会理事3期6年、現厚生労働省国家試験問題作成委員3期6年務める 【田所雅弘】視能訓練士として眼科に6年勤務経験あり。様々な視能検査に関わった。						
授業の学習内容	眼位、眼球運動、両眼視機能などの知識から各種診断的検査を行う。 眼位検査および大型弱視鏡を用いての検査の基礎知識や基本手技を習得する。						
到達目標	【内部】 眼位検査におけるさまざまな所見を説明できる。 患者所見から必要な検査・スライドを選択できる。 水平斜視、上下斜視の眼位検査を通して眼位を正しく定性、定量できる。						
評価方法と基準	定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) ※実技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/8	実習	大型弱視鏡:基本操作が実践できる。 △cover test:遠見眼位検査が実践できる。	レポート提出
2				
3	9/15	実習	大型弱視鏡:単眼眼位検査が実践できる。 △cover test:近見CTが実践できる。	レポート提出
4				
5	9/29	実習	大型弱視鏡:両眼眼位検査が実践できる。 △cover test:近見CUTが実践できる。	レポート提出
6				
7	10/6	実習	大型弱視鏡:両眼視機能検査(同時視・対応)が実践できる。 △cover test:近見ACTが実践できる。	レポート提出
8				
9	10/13	実習	大型弱視鏡:両眼視機能検査(融像・立体視)が実践できる。 △cover test:近見定性検査が実践できる。	レポート提出
10				
11	10/20	実習	大型弱視鏡:9方向眼位検査が実践できる。 △cover test:近見SPCTが実践できる。	レポート提出
12				
13	10/27	実習	大型弱視鏡:9方向眼位検査が実践できる。 △cover test:近見APCTが実践できる。	レポート提出
14				
15	11/10	実習	大型弱視鏡:症例を想定した検査が実践できる。 △cover test:近見眼位検査が実践できる。	レポート提出
16				
17	11/17	実習	大型弱視鏡:眼位検査(固視不良)が実践できる。 △cover test:上下斜視に対する定性検査が実践できる。	レポート提出
18				
19	11/24	実習	大型弱視鏡:残像検査(固視不良)が実践できる。 △cover test:上下斜視に対する定量検査が実践できる。	レポート提出
20				
21	12/1	実習	眼位検査の原理・方法について理解できる	実習内容をノートにまとめる。
22	12/1	実習	眼球運動検査の原理・方法について理解できる	実習内容をノートにまとめる。
23	12/8	実習	両眼視機能検査の原理・方法について理解できる	実習内容をノートにまとめる。
24	12/8	実習	講義内容を踏まえ、基本的な眼位・眼球運動検査が実践できる	レポート
25	12/15	実習	大型弱視鏡:9方向眼位検査が実践できる。 △cover test:遠見・近見眼位検査が実践できる。	レポート提出
26				
27	1/19	実習	大型弱視鏡:症例を想定した検査ができる。 △cover test:時間内に眼位検査ができる。	レポート提出
28				
29	2/2	講義	試験解説をする。	解説内容をノートにまとめる。
30				
準備学習 時間外学習			積極的に実習室での自主練習を行ってください。	
【使用教科書・教材・参考書】 □ 視能学・眼科検査法ハンドブック・講義資料				

科目名 (英)	視能検査学実習 I (Practical Training in Orthoptic Examination I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田所雅弘
		授業 形態	講義・実 習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜日 1・2限
学科・コース	視能訓練科						
教員の略歴	視能訓練士として眼科にて6年勤務経験あり。様々な視能検査に関わった。						
授業の学習内容	視能検査学に基づいた検査方法を実機を用いて実習する。 OCTの基礎知識や、OCT実機を使用して操作法を学ぶ。						
到達目標	視能検査学に基づき、その検査法を実際の手順に従って実践できる。 OCTの検査方法及び解析結果の見方が理解できるようになる。						
評価方法と基準	定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) ※実技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/25	実習	直像鏡眼底検査:直像鏡の検査原理を理解し説明できる。直像鏡を用いて眼底スケッチができる。	実習内容についてレポートを作成する。
2	10/2	実習	屈折検査:乱視表、クロスシリンダーを用いて正しく検査ができる。	屈折検査:乱視表、クロスシリンダーの原理について復習する。
3			眼底カメラ:散瞳眼底カメラの操作法を学び、正しく操作する事ができる。後極部の撮影ができる。	
4	10/9	実習	屈折検査:乱視表、クロスシリンダーを用いて正しく検査ができる。	屈折検査:乱視表、クロスシリンダーの原理について復習する。
5			眼底カメラ:散瞳眼底カメラの操作法を学び、正しく操作する事ができる。後極部の撮影ができる。	
6	10/16	実習	Worth4灯:検査原理を理解し正しく検査、判定ができる。	実習内容についてレポートを作成する。
7			眼底カメラ:散瞳眼底カメラにおいて周辺部網膜の撮影ができる。	
8	10/23	実習	Worth4灯:検査原理を理解し正しく検査、判定ができる。	実習内容についてレポートを作成する。
9			眼底カメラ:散瞳眼底カメラにおいて周辺部網膜の撮影ができる。	
10	10/30	実習	不等像検査:不等像を理解し、正しく検査・判定できる。	実習内容についてレポートを作成する。
11			中心フリッカー:臨界融合頻度を理解し、正しく検査・判定できる。	
12	11/6	実習	不等像検査:不等像を理解し、正しく検査・判定できる。	実習内容についてレポートを作成する。
13			中心フリッカー:臨界融合頻度を理解し、正しく検査・判定できる。	
14	11/13	実習	OCTの基礎について講義し、実機にてライン及びマップスキャンを撮影する。	実習内容についてレポートを作成する。
15				
16	11/20	実習	OCT実機にてディスクスキャン撮影、試験の予行演習	実習内容についてレポートを作成する。
17				
18	11/27	実習	Aモード:測定原理・方法を理解し、測定ができる。光学的眼軸長測定検査との違いが説明できる。	実習内容についてノートにまとめる。
19			パゴリニ・サイクロ・Maddox:各検査原理を理解し、正しく検査・判定できる。	
20	12/4	実習	Aモード:測定原理・方法を理解し、測定ができる。光学的眼軸長測定検査との違いが説明できる。	実習内容についてノートにまとめる。
21			パゴリニ・サイクロ・Maddox:各検査原理を理解し、正しく検査・判定できる。	
22	12/11	実習	Bモード:測定原理・方法を理解し、測定ができる。動的測定と、静的測定の違いを説明できる。	実習内容についてレポートを作成する。
23			パゴリニ・サイクロ・Maddox:各検査原理を理解し、正しく検査・判定できる。	
24	12/18	実習	Bモード:測定原理・方法を理解し、測定ができる。動的測定と、静的測定の違いを説明できる。	実習内容についてレポートを作成する。
25			パゴリニ・サイクロ・Maddox:各検査原理を理解し、正しく検査・判定できる。	
26	1/8	実習	屈折検査:乱視表、クロスシリンダーを用いて正しく検査ができる。	実習内容についてレポートを作成する。
27			Hess・注視野:眼球運動を理解し、正しく検査・評価ができる。	
28	1/15	実習	屈折検査:乱視表、クロスシリンダーを用いて正しく検査ができる。	実習内容についてレポートを作成する。
29			Hess・注視野:眼球運動を理解し、正しく検査・評価ができる。	
30	2/5	講義	試験解説を行う。	解説内容をノートにまとめる。
準備学習 時間外学習			内容の濃いレポートを作成するために、積極的に実習に参加してください。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
教科書:眼科検査法ハンドブック、理解を深めよう視力検査屈折検査、目でみる視力・屈折検査の進めかた				

科目名 (英)	神経眼科学 I (Neuron Ophthalmology II)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	東北大学病院 医師
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 月曜 2限
教員の略歴	東北大学病院眼科より眼科専門医が講師として来校						
授業の学習内容	眼球運動障害について学ぶ。 眼振と眼振様運動について学ぶ。 神経解剖学について学ぶ。 瞳孔異常について学ぶ。 眼瞼と顔面表情筋の障害について学ぶ。 高次視機能障害について学ぶ。 眼疾患と全身疾患について学ぶ。 視神経疾患について学ぶ。 乳頭の異常について学ぶ。 視交叉、後頭葉の病変について学ぶ。 眼窩疾患と海面静脈洞病変について学ぶ。 偏頭痛とその他頭痛について学ぶ。						
到達目標	国家試験対策のために重要な皮膚から末梢病変を学習し、鑑別診断から治療までを系統立てて説明できる。						
評価方法と基準	1 定期試験 筆記 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/7	講義	眼球運動障害について学ぶ。 眼振と眼振様運動について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	講義内容に関してノートにまとめる。
2	9/9	講義	神経解剖学について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	講義内容に関してノートにまとめる。
3	9/10	講義	瞳孔異常について学ぶ。 眼瞼と顔面表情筋の障害について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	講義内容に関してノートにまとめる。
4	9/11	講義	高次視機能障害について学ぶ。 眼疾患と全身疾患について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	講義内容に関してノートにまとめる。
5	9/14	講義	視神経疾患について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	講義内容に関してノートにまとめる。
6	9/16	講義	乳頭の異常について学ぶ。 視交叉、後頭葉の病変について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	講義内容に関してノートにまとめる。
7	9/17	講義	眼窩疾患と海面静脈洞病変について学ぶ。 偏頭痛とその他頭痛について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。	講義内容に関してノートにまとめる。
8	9/28	講義	神経眼科に必要な神経経路が説明できる。	小テスト
9	10/5	講義	視路を理解し、視野障害から障害部位を判定できる。	小テスト
10	10/12	講義	瞳孔の解剖生理を理解し、散瞳・縮瞳・瞳孔不同をきたす疾患を説明することができる。また、瞳孔反応の異常について判断できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
11	10/19	講義	全身疾患が誘因となる眼疾患を学ぶ。糖尿病・動脈硬化・高血圧の病態を簡潔に説明できる。	小テスト
12	10/26	講義	視神経疾患について理解できる。	講義内容に関してノートにまとめる。
13	11/9	講義	確認試験(内部教員分)を行う。	確認試験
14	11/16	講義	確認試験解説を行う。	解説内容をノートにまとめる。
15	2/1	講義	試験解説を行う。	解説内容をノートにまとめる。
準備学習 時間外学習			講義内容に対応する教科書のページを熟読し、ノートまとめをする。	
【使用教科書・教材・参考書】 視能学 第2版・神経眼科学 臨床のために				

科目名 (英)	生理光学実習 (Minor Correctipn Study Practice)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	田所雅弘
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	後期 木曜 12限
教員の略歴	視能訓練士として眼科にて6年勤務経験あり。様々な視能検査に関わった。						
授業の学習内容	生理光学で学んだ知識をもとに対象・検査手順・評価を学習する。						
到達目標	各種講義で学んだ知識をもとに検査・評価ができる。						
評価方法及び基準	1 定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) ※実技試験にて不合格の場合 筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/10	実習	オフサルモ・ケラト:オフサルモメータの検査原理を理解し説明できる。オフサルモメータとオートケラトメータを使用し、正確な値を出せる。	レポート
2			クロスシリンダー:クロスシリンダーの原理を説明できる。	
3	9/17	実習	オフサルモ・ケラト:オフサルモメータの検査原理を理解し説明できる。オフサルモメータとオートケラトメータを使用し、正確な値を出せる。	レポート
4			クロスシリンダー:クロスシリンダーの原理を説明できる。	
5	9/24	実習	CL・細隙灯:HCLの処方方法を学び、被検者への着脱方法を理解し説明できる。HCLのフィッティングを正しく評価できる。	
6			クロスシリンダー:本軸決定ができる。	
7	10/1	実習	CL・細隙灯:HCLの処方方法を学び、被検者への着脱方法を理解し説明できる。HCLのフィッティングを正しく評価できる。	
8			クロスシリンダー:本軸決定ができる。	
9	10/8	実習	CL・細隙灯:HCLの着脱方法における手技を実践し、安全に実施する事ができる。HCLのフィッティングを正しく評価できる。	レポート
10			クロスシリンダー:乱視度数決定ができる。	
11	10/15	実習	検影法 ①レチノスコープの特徴を知り、操作できる。	
12			②検影法の基本原理がわかる。	
13	10/22	実習	検影法 ③模擬眼のゼロセッティングができる。	
14			④弱度屈折異常を評価することができる。	
15	10/29	実習	検影法 ①強度屈折異常を評価することができる。	
16			②正確な評価技術が実践できる。	
17	11/5	実習	検影法 ③迅速な評価技術が実践できる。	
18			④オーバーレフラクションが実践できる。	
19	11/12	実習	CL・細隙灯:HCLの着脱方法における手技を実践し、安全に実施する事ができる。HCLのフィッティングを正しく評価できる。	レポート
20			クロスシリンダー:乱視度数決定ができる。	
21	11/19	実習	スペキュラーマイクロスコープ/角膜形状解析:各検査の検査原理を理解し、説明できる。正確な検査結果を出す事ができる。	レポート
22			クロスシリンダー:授業資料を見ずに検査を行うことができる。	
23	11/26	実習	スペキュラーマイクロスコープ/角膜形状解析:各検査の検査原理を理解し、説明できる。正確な検査結果を出す事ができる。	レポート
24			クロスシリンダー:授業資料を見ずに検査を行うことができる。	
25	12/3	実習	近視視力:年齢に応じた適切な度数を加入できる。	レポート
26			中和法 :トリック法ができる。	
27	12/17	実習	両眼開放:両眼開放視力を測定することができる。	レポート
28				
29	2/4	講義	試験解説	
30				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
教科書:眼科検査法ハンドブック、理解を深めよう視力検査屈折検査、目でみる視力・屈折検査の進めかた				

科目名 (英)	臨床関連医学 (Clinical Medicine)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木恵子
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜日 4限
教員の略歴	昭和63年弘前大学医学部卒業医師免許取得 東北大学大学院医学博士 みちのく記念病院勤務						
授業の学習内容	眼科領域及び関連外科の代表的疾患の病態生理を解説する。内科学に関しては循環器、呼吸器、代謝性疾患など分野別に疾患の病態生理を解説する。生理学、解剖学、病理学に関連する内容であり、医療職の人間に必要な知識を解説する。						
到達目標	眼科関連疾患以外の医学全般における基礎的な知識を習得する。 それにより、基礎疾患をもった患者さんに適切な対応が可能となる。チーム医療を担う視能訓練士の質の向上につながる。						
評価方法と基準	定期テスト100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/11	講義	救命救急の方法について説明できる	口頭試問のために復習
2	9/18	講義	一般外科疾患を説明できる	口頭試問のために復習
3	9/25	講義	循環器疾患を説明できる	口頭試問のために復習
4	10/2	講義	呼吸器疾患を説明できる	口頭試問のために復習
5	10/9	講義	消化器疾患を説明できる	口頭試問のために復習
6	10/16	講義	糖尿病を説明できる	口頭試問のために復習
7	10/23	講義	内分泌を説明できる	口頭試問のために復習
8	10/30	講義	アレルギーを説明できる	口頭試問のために復習
9	11/6	講義	腎疾患を説明できる	口頭試問のために復習
10	11/13	講義	臓器別感染症を説明できる	口頭試問のために復習
11	11/20	講義	細菌性感染症を説明できる	口頭試問のために復習
12	11/27	講義	ウイルス感染症を説明できる	口頭試問のために復習
13	12/4	講義	脳外科疾患を説明できる	口頭試問のために復習
14	12/11	講義	眼科疾患を説明できる	口頭試問のために復習
15	2/5	試験解説	試験解説を行う。	解説内容をノートにまとめる。
準備学習 時間外学習			教科書を熟読する。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
一般臨床医学 医歯薬出版				

科目名 (英)	進級卒業研究 (Promotion & Graduation Research)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	田所雅弘 佐藤遼佳
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 金曜3限
教員の略歴	【田所雅弘】視能訓練士として6年の勤務経験あり 眼科一般検査全般に従事 【佐藤遼佳】視能訓練士として5年の勤務経験あり 眼科一般検査全般に従事						
授業の学習内容	専門知識・技術の習得の過程で疑問に思ったことや興味を持ったテーマを問題発見から解決まで研究する。						
到達目標	研究テーマを決定し、データ収集や分析を行うことで研究の流れを習得する。						
評価方法と基準	クラス内報告会(50%)、研究計画書(30%)、提出物(20%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態・時間帯	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/11	講義	概要説明・研究テーマを決定する	
2	9/18	演習	研究計画書を作成する	研究計画書の提出
3	9/25	演習	データを収集する	研究テーマに従って、データ収集
4	10/2	演習	データを収集する	〃
5	10/9	演習	データ収集・データの分析をする	〃
6	10/16	演習	データ収集・データの分析をする	〃
7	10/23	演習	PPT・抄録を作成する	PPT・抄録作成
8	10/30	演習	PPT・抄録を作成する	〃
9	11/6	演習	PPT・抄録を作成する	〃
10	11/13	演習	PPT・抄録を作成する	PPT・抄録データの提出
11	11/20	演習	PPT・抄録を修正する	
12	11/27	演習	PPT・抄録を修正する	PPT・抄録データの提出
13	12/4	演習	クラス内研究発表会①	
14	12/11	演習	クラス内研究発表会②	
15	12/18	演習	総括 研究発表会振り返り	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

